

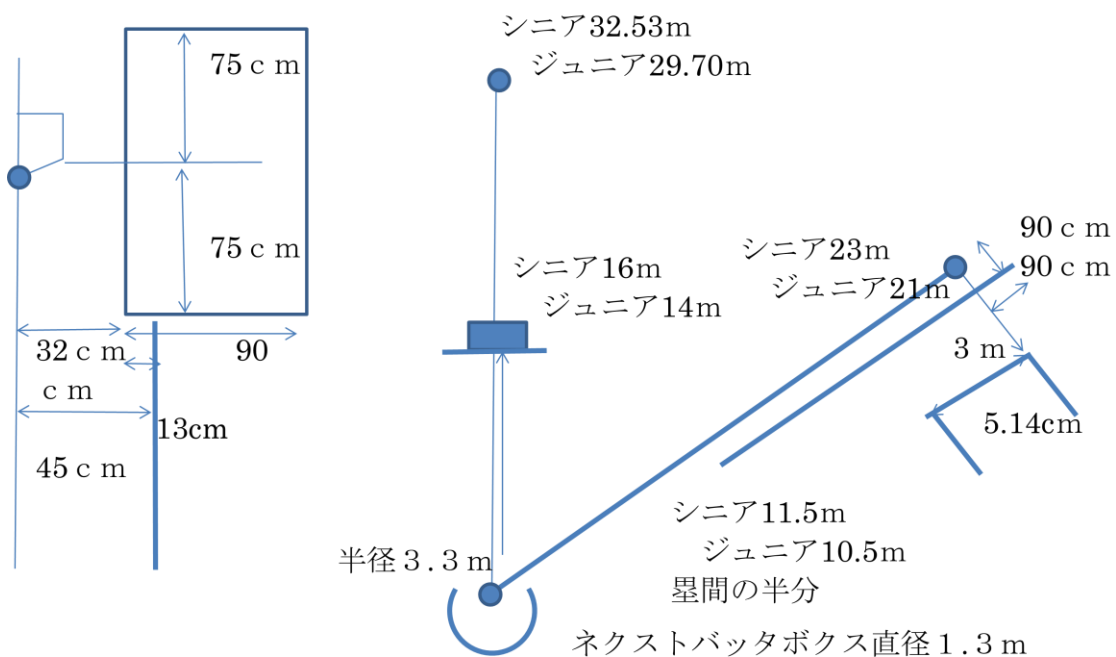
# グラウンドの作成

平成 28 年ファイヤーナインズ 中井審判部長

2016.11.21

目的： 八石小で、ダイヤモンドやバッターボックスの目印を埋めても、撤去されることが多いこと、軟弱な場所をさけてやりたいときがあることから、すぐグラウンドが作れるよう、正規の作り方を知り、本多球場でのグラウンド作りにも協力できるよう文書化しておく。

完成図



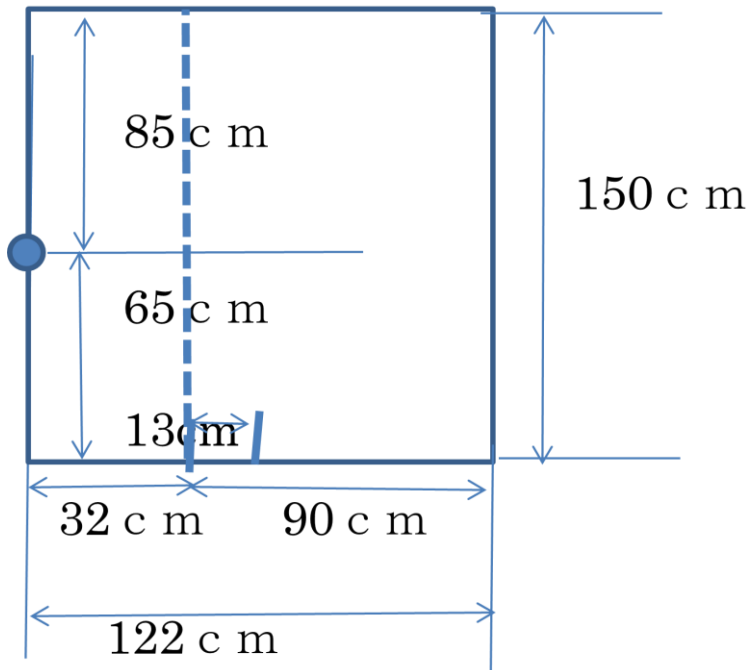
基本的考え

0. 一人でもできるように書いておきます。3人ぐらいが早いです。
1. 本塁とセカンドを結ぶ線が基本線で、対称に作る。
2. 白線は、使う人から見て、外側が示された寸法になるようひく。
3. バッターボックスは、予め、伸縮しないもので作っておくと早い。(後で、示します)
4. ファウルラインは、適宜、監督等と相談し決めて下さい。

用意する物 ライン引き、メジャー、杭、金槌、本説明書

1. 本塁の位置を決める。前頁左図の点で、しっかりした杭をうち、メジャーの端の輪をひっかける。  
(0点との差10cmくらい( $\alpha$ とする)を見て、このことは以降の説明で考慮する)  
(ここは、バッターボックスの前後の基点ではありません。)
2. メジャーとライン引き、杭を持って、2塁に行き、方向を決め、所定の距離(シニア32.53m、ジュニア29.7m) -  $\alpha$  をとり杭をうつ。ライン引きで+の目印をつけておく。
3. 投手板の前後位置、および、センターにライン引きで目印をひく。
4. 塁間の2倍の長さ(シニア46m、ジュニア23m) -  $\alpha$  まで、メジャーを伸ばし、くいに巻きつけ、伸びないようにする。
5. 塁間の長さ -  $\alpha$  のところで、メジャーをつまみ、ライン引き、1塁方向に持って行き、メジャーがピンと張った位置が、1塁の基点になるので、ライン引きで目印をつける。
6. 同様に、3塁の位置を決める。
7. 2塁に巻きつけたメジャーを解き、メジャーをライト側に持って行き、1塁の目印にメジャーが乗るようにまっすぐセットし、本塁からライトまで白線を引く。
8. 3フィートラインの始点を、所定の距離(シニア11.5m、ジュニア10.5m) -  $\alpha$  で目印をつけておく。
9. 同様に、本塁からレフトまで白線を引く。
10. 本塁にかけたメジャーをはずし、3フィートラインをひく。
11. 1塁コーチャーズボックスは、1 - 2塁間の延長上を基点としてひく。
12. 同様に3塁コーチャーズボックスを引く。
13. 投手板のセンターと本塁の杭とを結ぶ線をメジャーで延長し、本塁の基点前後±1mほど、釘で線をひく。メジャーの幅にも注意して、目盛のある方をつかうとか決めておく。
14. この中心線に、予め用意しておいたバッターズボックス用シートの端および、基点位置をあわせて、置く。
15. バッターボックスの頂点、および本塁側を除いた3辺を釘でなぞる。  
キャッチャー用の線の開始位置も印をつけておく。
16. シートをはずし、描き残したバッターボックスの1辺、およびキャッチャー用の線をひく。
17. 14. 以降を反対側のバッターズボックスについて行う。
18. 本塁の杭に、メジャーの端の輪をひっかけ、半径  $3.3\text{m} - \alpha$  の円弧(振り逃げの判断に用いる)を描く
19. ネクストバッターズサークルを直径1.3mで描く。
20. ファウルライン、ベンチラインを描く。

バッターズボックス用シート 仕様



エンタイトルツーベース・ホームラン領域定義 (ジュニア用暫定)

